

## 第3回 米取引の事前契約研究会向け

# 米の生産・流通・販売円滑化調査委託事業 に関する説明資料

株式会社オプティム

- 株式会社オプティム会社概要
- 本事業の背景とロードマップ
- ヒアリング調査の概要と結果
- プラットフォームのコンセプト
- プラットフォームの構想
- 既存事業とのすみ分け
- ペーパープロトタイプ

# 株式会社オプティム会社概要

---

# 会社説明

OPTiM®

商号 株式会社オプティム（英語表記：OPTiM Corporation）  
東京証券取引所一部：3694

所在地 OPTiM TOKYO（東京本社）  
：東京都港区海岸1丁目2番20号 汐留ビルディング 21F  
TECH CENTER SHIBADAIMON（テックセンター芝大門）  
：東京都港区芝大門2丁目11番8号 住友不動産芝大門二丁目ビル8F  
OPTiM SAGA（佐賀本店）  
：佐賀県佐賀市本庄町1 オプティム・ヘッドクォータービル  
TECH CENTER IIZUKA（テックセンター飯塚）  
：福岡県飯塚市川津 680-41 飯塚研究開発センター103号室  
OPTiM FUKUOKA  
：福岡県福岡市博多区綱場町5番14号 さぎん福岡ビル4F  
OPTiM KOBE  
：兵庫県神戸市中央区小野柄通7丁目1番1号 日本生命三宮駅前ビル11F  
OPTiM SAN JOSE (US)  
：Metro Plaza – 101, North San Jose, San Jose, CA

代表 菅谷 俊二（佐賀大学農学部招聘教授）

設立 2000年6月8日

資本金 443百万円

決算月 3月

従業員数 正社員・契約社員500名（派遣社員及びアルバイトの最近1年間の平均人員58名/月平均）／平均年齢33.3歳（2018年3月末現在）

主要株主 菅谷 俊二、東日本電信電話株式会社、富士ゼロックス株式会社

事業内容 ライセンス販売・保守サポートサービス（オプティマル）事業  
（IoTプラットフォームサービス／リモートマネジメントサービス／  
サポートサービス／その他サービス）



# 本事業の背景とロードマップ

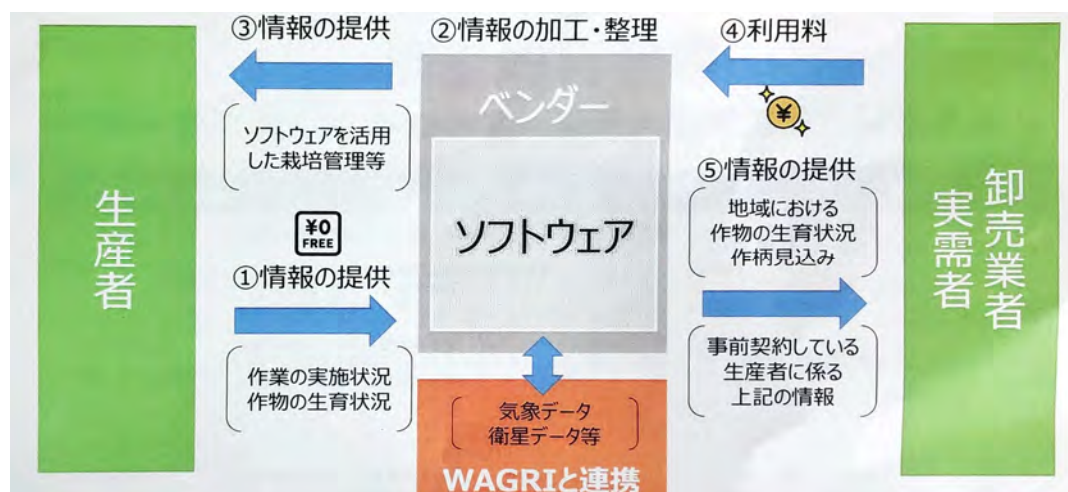
---

## □ 課題

- 米の収量・品質等の情報は天候次第で大きく変動するため見通しづらく、米の実需（卸売事業者や小売量販など）において米の調達・販売計画の策定ができていない。
- その結果、収穫時期に想定した収量・品質等に至らなかった場合、しばしばマーケットに混乱が見られる傾向にある。

## □ このプロジェクトを通じて目指すこと

- 生産者・産地からリアルタイムで生育状況、収量・品種等の情報を提供するプラットフォームを整備し、実需等が活用できるものとする
- これにより、マーケットの混乱を抑え、円滑な米の生産・流通・販売を実現する
- 将来的には**生産者と流通・販売業者のマッチング**ができるようにする



本事業では、ヒアリング調査結果を基に、産地・実需者が求めている情報を提供し、取引を円滑化する生産・流通・販売プラットフォームを検討する。

本事業



STEP1

STEP2

STEP3

STEP4

1. 生産者・実需者へのヒアリング調査
  - 現状の取引を行う上での課題ヒアリング。
  - 収集及び提供可能な情報の洗い出し。
2. 生産・流通・販売プラットフォームの検討
  - 当社で検討しているプラットフォームの改善。
  - プラットフォームとして必要となる技術の洗い出し。
3. プロトタイプモデルの実証実験
  - 本事業内で収集した情報を実需者へ提供し、実取引の際で有益な情報となるか調査する。
  - 実証実験を基に再度プロトタイプを改善・検討する。
4. 本事業にて検討したプラットフォームの構築
  - 様々な産地や企業と協力し、プラットフォームの構築へ向けた取り組みを加速させる。

次年度以降

# ヒアリング調査

---



## 生産者・産地

- ヒアリング範囲： 全国10農業生産法人以上。
- ヒアリング対象条件： 20~50ha程度の中・大規模で水稻を生産している農業生産法人。

## 実需者（地域卸業者・商社）

- ヒアリング範囲： 全国5業者以上
- ヒアリング対象条件： 地域に根ざしている卸業者と全国で集荷している商社。

## 中食・小売・外食業者

- ヒアリング範囲： 中食・小売・外食業者1業者ずつ
- ヒアリング対象条件： 消費者へ販売している事業者で3つの区分に当てはまる事業者。

## □ 当初想定課題

米の収量・品質等の情報は天候次第で大きく変動するため見通しづらく、米の実需（卸売事業者や小売量販など）において米の調達・販売計画の策定ができていない。その結果、収穫時期に想定した収量・品質等に至らなかった場合、しばしばマーケットに混乱が見られる傾向にある。

## □ ヒアリング結果まとめ

- ・現状コメ余りの日本においては卸間売買により収量は確保できており、よほどの凶作でない限りマーケットの混乱が発生することはない。
- ・ただし、実需の各属性では以下の情報はコメの調達において価値のある情報となり得る。

実需属性	情報	用途
地域卸業者・全国商社	栽培過程の「量」「品質」	特定地域不作時に組み替え先の確保を簡易化
小売業者	栽培計画・履歴	ブランディング戦略
中食	栽培計画・履歴	ブランディング戦略、調達基準見直し
外食	栽培過程の「量」「品質（食味）」	調達計画の修正、生産地直接仕入比率の向上



**以上の情報を生産者・産地から集約し、実需者が解釈可能な形で発信できるPFを構築することが重要**

# 各事業者が求める情報とプラットフォーム利用メリット



事業者区分	プラットフォームに求めること	現状の課題	米情報プラットフォームの利用メリット
生産者 (中・大規模生産法人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培効率化</li> <li>・収量、品質向上及び収益向上</li> <li>・新規販路開拓</li> </ul>	<p><b>(栽培に関する情報)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近年の気象変動により、通常通りの栽培方法では収量、品質の低下が懸念されている。</li> </ul> <p><b>(販売に関する情報)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後面積が拡大していくにあたり、新規販路を開拓していく必要がある。</li> <li>・取引先に対して、栽培履歴情報を提出する際に、都度様々な形式で提出する必要があり手間が係る。</li> </ul>	<p><b>(栽培に関する情報)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培目標に沿った適期栽培方法がレコメンドされることで、最終的に販売したい米を生産することが可能になる。</li> <li>・PF上で実需者との協議しながら栽培や次年度計画を立てることができる。</li> </ul> <p><b>(販売に関する情報)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・販売先を新たに獲得するにあたり、米PF上で信頼度の高い業者を選定し、新規販路開拓を行うことができる。</li> <li>・栽培システムと連携することで、取引実需者に対して、簡易的に栽培履歴等の情報を提供ができる。</li> <li>・他の生産者の情報も確認できるため、生産者同士での新たな繋がりを開拓することも可能になる。</li> </ul>
地域卸業者・全国商社	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国的な収量傾向</li> <li>・品質（歩留に係る）傾向</li> </ul>	<p><b>(栽培に関する情報)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者と直接やり取りをして栽培履歴等の情報を収集しており手間が係る。</li> </ul> <p><b>(調達に関する情報)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域普及員等から収量傾向情報を収集したり、地域作況情報を確認して調達計画立てている。</li> </ul>	<p><b>(栽培に関する情報)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PFにアクセスするだけで、容易に全国各地の取引生産者の栽培履歴情報等を取得することができる。</li> </ul> <p><b>(調達に関する情報)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・無料情報として、全国収量傾向が確認できるため、全国の収量傾向を把握することが可能になる。追加調達が必要な場合は、本PFの生産者一覧から新規取引生産者の開拓が可能になる。</li> </ul>
外食業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国的な収量傾向</li> <li>・品質（歩留・食味に係る）傾向</li> </ul>	<p><b>(栽培に関する情報)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者と直接やり取りをして栽培履歴等の情報を収集しており手間が係る。</li> </ul> <p><b>(調達に関する情報)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1等米の調達を希望しているが、調達計画通りには集まらないことが多い。</li> </ul>	<p><b>(栽培に関する情報)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PFにアクセスするだけで、容易に全国各地の取引生産者の栽培履歴情報等を取得することができる。</li> </ul> <p><b>(調達に関する情報)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・無料情報として、全国収量傾向が確認できるため、全国の収量傾向を把握することが可能になる。追加調達が必要な場合は、本PFの生産者一覧から新規取引生産者の開拓が可能になる。</li> </ul>
中食業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培計画、履歴</li> <li>・品質（食味に係る）情報</li> </ul>	<p><b>(栽培に関する情報)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者と直接やり取りをして栽培履歴等の情報を収集する場合もある。</li> </ul>	<p><b>(栽培に関する情報)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PFにアクセスするだけで、容易に全国各地の取引生産者の栽培履歴情報を取得でき、販売する際に付加価値を付けて販売することに繋がる。</li> </ul>
小売業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培計画、履歴</li> <li>・品質（食味に係る）情報</li> </ul>	<p><b>(調達に関する情報)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特段課題はない。</li> </ul>	<p><b>(調達に関する情報)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国の生産者を検索して、生産者のこれまでの栽培履歴や米の情報を確認した上で、新規取引生産者の開拓が可能になる。</li> </ul>

# プラットフォームコンセプト

---

## 【当初の課題】

- ・米取引において、単年度での調達計画の混乱を解消するためにマッチングプラットフォームを構築し、米調達を円滑化する。



## 【中間検討会を受けた改善】

- ・単年度での調達計画の円滑化ではなく、より長期的な観点で米の需給バランスの改善に繋がるプラットフォームを構築する。
- ・本プラットフォームを通して生産者と実需者がマッチングし、両者で栽培目標を共有した上で栽培を行う。
- ・生産者側から営農情報、生育情報を共有でき、実需者側から食味情報（食味計データ、官能試験結果）や消費者からの情報などをフィードバックできる形を目指す。

# プラットフォーム構想

---

# ～新たな米の生産・流通・販売体制の構築を実現するプラットフォーム～

営農管理ツール等と連携したプラットフォームに、米の生産者と実需者（卸売業者、小売業者、中食・外食事業者等）が、営農情報（栽培履歴等）、品質情報や取引条件等を共有・蓄積させるもの。

- ➡ ①生産者と実需者が、信頼性の高いプラットフォーム上に共有・蓄積された営農情報や品質情報等に簡易にアクセスでき、マッチング・双方向に情報共有する場を提供することにより、実需者・消費者が求める品質・量の米の生産・流通・販売を行う体制の構築に貢献する。
- ➡ ②リアルタイムの生育情報等に基づく地域ごとの収量傾向を早期に提示し、出来秋の米の調達の円滑化に貢献する。

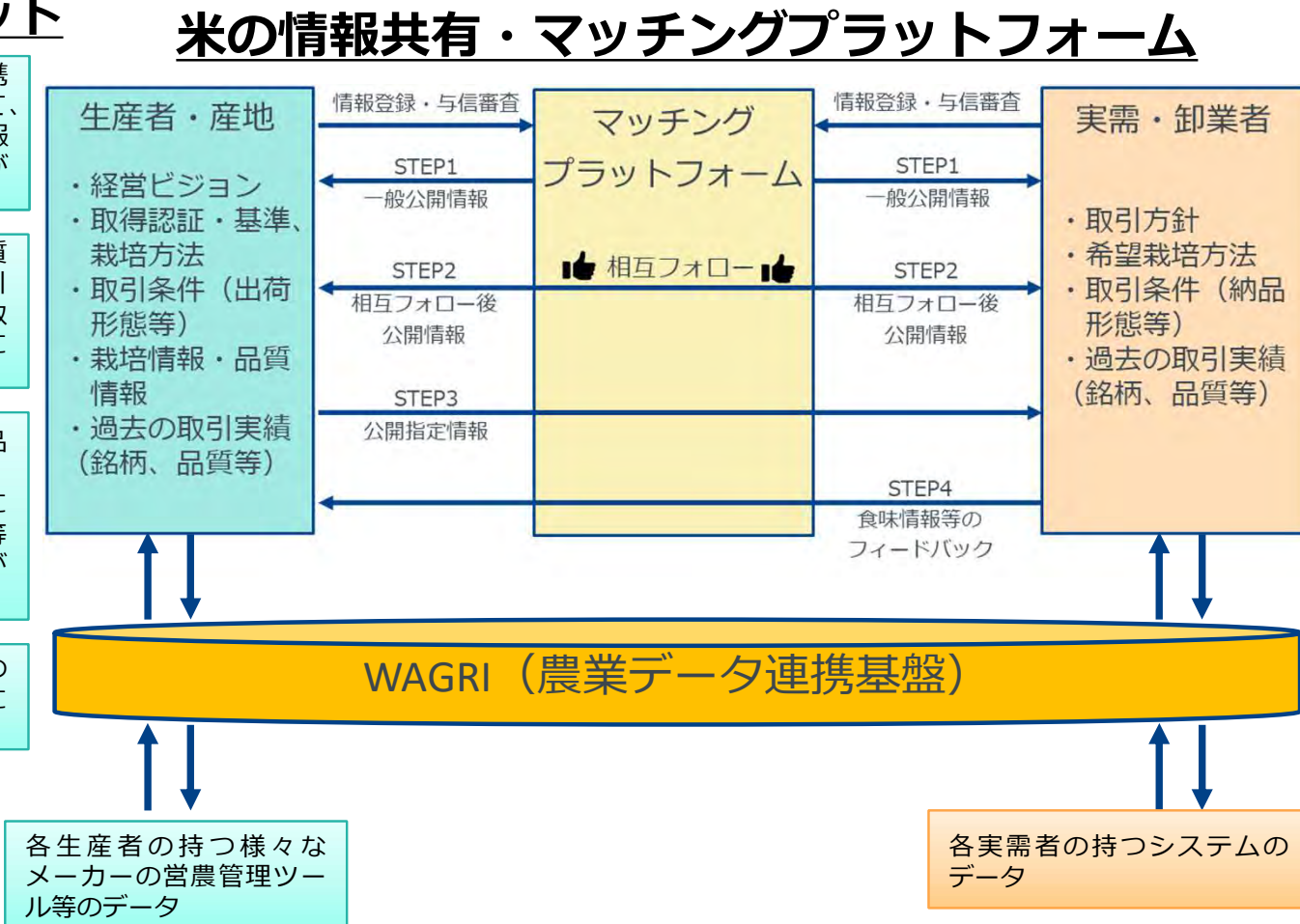
## 生産者側メリット

営農管理ツール等と連携し、取引実需者に対して、栽培履歴・品質等の情報を簡易に提供することが可能

生産者の栽培履歴・品質等の情報や実需者の取引方針等の情報は、新規取引のためのマッチングに活用が可能

実需者の求める米の品質・栽培方法を把握し、それに沿った栽培管理について営農管理ツール等から支援を受けることが可能

実需者から食味情報等のフィードバックを簡易に受け取ることが可能



## 実需者側メリット

生産者の栽培履歴・品質等の情報を簡易に閲覧することが可能

求める品質・量の取引を複数の生産者に簡易に提案することが可能。

生産者の栽培履歴・品質等の情報や実需者の取引方針等の情報は、新規取引のためのマッチングに活用が可能

取引生産者の栽培履歴情報等を簡易に取得可能であり、産地情報が確保された生産物として付加価値を付けて販売することに寄与

生産者に対して食味情報等のフィードバックを簡易に行うことが可能

地域ごとの収量傾向を早期に確認でき、米の調達の円滑化に寄与

生産者	実需者	
<b>STEP1 【無料】 一般公開情報</b>		無料公開のみ可能
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 基本情報</li> <li>・ 生産者名 (法人名)</li> <li>・ 住所</li> <li>・ ビジョン</li> <li>・ 生産品種、面積</li> <li>・ 認証・基準</li> <li>・ 栽培方法</li> <li>・ 評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 基本情報</li> <li>・ 実需者名 (法人名)</li> <li>・ 住所</li> <li>・ 販売方針</li> <li>・ 取引希望条件</li> <li>・ 希望栽培方法</li> <li>・ 評価</li> </ul>	
■ 地域収量予測情報		
<b>STEP2 【有料】 相互フォロー後公開情報</b>		無料公開、マッチング後公開で選択可能
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 取引条件</li> <li>・ 出荷形態</li> <li>・ 契約可能数量</li> <li>・ 契約方法</li> <li>・ 支払い条件</li> <li>・ 保管倉庫販売希望価格</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 取引条件</li> <li>・ 納品形態</li> <li>・ 契約可能数量</li> <li>・ 契約方法</li> <li>・ 支払い条件</li> <li>・ 保管倉庫</li> <li>・ 納品場所</li> <li>・ 仕入希望価格</li> </ul>	
<b>STEP3,4 【有料】 公開指定情報</b>		マッチング後公開、公開先指定で選択可能
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 栽培情報</li> <li>・ 栽培目標</li> <li>・ 農作業記録</li> <li>・ 画像/センサーデータ</li> <li>■ 収穫情報</li> <li>・ 農産物検査結果</li> <li>■ 過去の取引情報</li> <li>・ 実績(取引銘柄、数量、品質)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 収穫情報</li> <li>・ 食味計データ</li> <li>■ 過去の取引情報</li> <li>・ 実績(取引銘柄、数量、品質)</li> </ul>	



# 既存事業とのすみ分け

---

# 既存の類似プラットフォーム①agreach



OPTiM®

## □ コンセプト

- 農林水産物の取引を見える化（透明化）し、生産者とバイヤー、卸売市場をつなぐためのマッチング・システム。米麦、野菜、果物など全農家を対象とする。現在の登録者数：934（2020/12/17現在）

## □ 機能

- 検索：生産者、卸売市場、バイヤー（それぞれ品目、地域などでフィルタリング可能）
- 市況情報：農林水産省「青果物市況情報」を使用

## □ 課題と思われる点（折笠さまより）

- 一度マッチングすると中長期的な契約がシステム外で行われ、アグリーチに戻ってこないため、マネタイズが難しい。
- 決済機能がないため、成約に至ったか否かの検証ができない。



## □ 当PFとの相違点

- 当PFでは、実需者がニーズに合った調達を達成する際に必要となる「リアルタイムな栽培情報」などが提供できるため、毎年の調達の際に訪問する必要があることから継続利用の可能性はある。また、当該情報へのアクセスを有料化することで、プラットフォームの継続運営が可能となる。

# 既存の類似プラットフォーム②米市場



## □ コンセプト

- 米生産者と米卸業者・実需家がインターネット上で米の売買取引をする場を提供するサービス

⇒収穫・売買する米の銘柄・価格・数量を予め決めることで、米生産者の計画生産・経営の安定化を支援し、また、米卸業者・実需家の調達安定化を目指す

## □ 機能

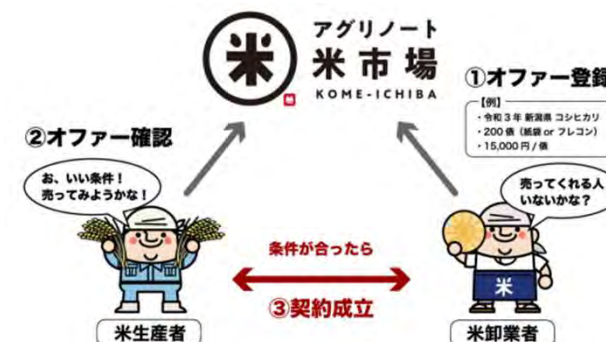
- 米卸・実需：取引条件（銘柄/産地/営農指導など）をオファー登録
- 生産者：希望オファーに対し、単価などの取引条件を提示
- 決済代行（収納代行）：米の発送確認された後に買い手から玄米代金を預かり、その後買い手による現品の検収確認後に、売り手に米の代金を支払う

※「アグリノート」有料ユーザー（生産者、年間6,000円）のみ、売買機能利用可能。無料ユーザーは買取オファーの閲覧のみ可能

## □ 当PFとの相違点

- 米市場では生産者からのオファーは原則不可
- 当PFでは収量・栽培履歴などの情報から、実需者が

求める商品や、その年ごとの調達状況に合わせた調達をすることが可能



# ペーパープロトタイプ

---

# 米の情報プラットフォーム画面遷移①

他システム

米の情報プラットフォーム

生産者A

実需者B

米の情報PF TOP

ログイン画面

生産者新規登録

実需者新規登録

・全国収量予測情報  
・地域ごとの登録生産者一覧

与信審査が通らなかった場合は  
全国収量予測情報、及び地域ごとの  
登録生産者一覧以外は閲覧不可

生産者と信審査登録

実需者と信審査登録

与信なし

与信あり

与信あり

与信なし

営農情報登録

有料会員登録

料金支払い

登録実需者一覧画面

登録生産者一覧画面

AgriFieldManager

圃場分析システム



営農指導アプリ



営農管理アプリ

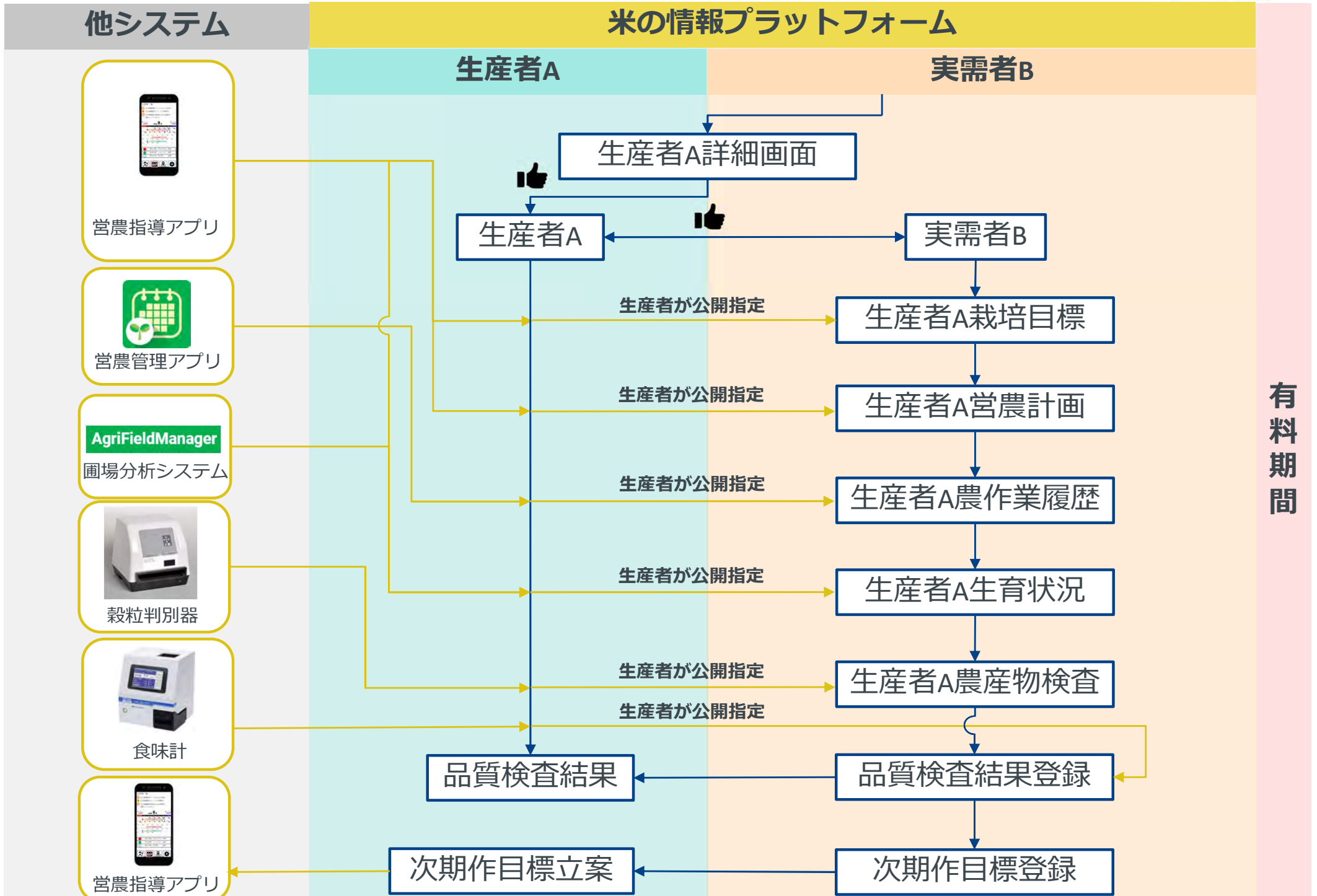


決済代行サービス

無料期間

有料期間

# 米の情報プラットフォーム画面遷移②



マイページ

生産者

実需者

全国収量傾向

フィードバック

米の生産～流通～販売を円滑に進めるためのプラットフォーム

## 生産

生産者の営農情報、生育情報をリアルタイムで確認可能なため、調達計画を立てやすくなります。

## 流通

収量予測情報を基に調達をかけ、各種手配を進めることで、スムーズな流通を実現できます。

## 販売

生産者の営農情報をリアルタイムで入手できるため、有利販売に繋げることができます。

## 生産者

- ・ 営農情報、生育情報を実需者へ公開することで、今後の新たな取引へ繋げることができます。
- ・ 実需者が求めている米を栽培することで、消費者にもより良い米を届けることができます。

Follow



## 実需者（卸、中食、外食、小売）

- ・ 販売戦略に沿った米を生産している生産者を見つけて取引に繋げることができます。
- ・ 相互フォローになれば、生産者の営農情報、生育情報などをリアルタイムで確認可能になり、調達計画に役立てることができます。

